



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 45, April 2024

# Newsletter

## 令和6年度事業計画

財団は、以下のとおり令和6年度事業計画及び予算を決定しました。

## 令和6年度事業計画

### 1 経常的な法人運営

#### ① 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発

##### i 『学術の動向』の発行

総合学術情報誌『学術の動向』を発行し、日本学術会議関係者、財団賛助会員、大学、図書館、研究機関等に配布する。

『学術の動向』に掲載されている論文等については、国立研究開発法人科学技術振興機構のアーカイブ事業（J-STAGE）を通じて広く一般に公開する。

##### ii 『学術会議叢書』等の発行

学術及び学術研究の成果を社会一般に普及するため、日本学術会議が行った公開講演会や各種シンポジウム等の記録に加えて、当該学術テーマに関する最新の科学者の論考を盛り込んだ『学術会議叢書』等を発行する。

本年度の同叢書のテーマは「生殖補助医療のこれから（仮題）」として、本年度も、公益財団法人一ツ橋総合財団の助成により刊行し、全国、約1,500か所の国公立図書館・大学付属図書館等に寄贈する。

#### ② 学術連携推進事業

##### i 科学者連携事業

日本学術会議主催の講演会、シンポジウム等の事業に対する支援を行う。

##### ii 学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

「データベース『学会名鑑』」については、日本学術会議と連携して運用し、毎年度、日本学術会議が行う協力学術研究団体の実態調査を基にデータの整備・公表を行っている。

日本学術会議が行う協力学術研究団体の実態調査等についても当財団が同会議より受託し、関係データの整備、充実に努める。

上記の取り組みにより、「データベース『学会名鑑』」が我が国学協会の実態を示す基本的データベースとして一層利活用されるように努める。

this issue

令和6年度事業計画  
公開講演会開催に対する支援  
学術会議叢書31について  
データベース学会名鑑について  
学術関係団体事務支援事業  
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人  
日本学術協力財団  
〒107-0052  
東京都港区赤坂4-9-3  
TEL 03-3403-9788  
FAX 03-5410-1822  
URL <http://jssf86.org/>

2024年4月1日発行

[ 略 ]

### ③ 学協会運営支援

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー等からの要請を受けて、運営事務の支援を行う。

## 2 事業運営及び法人財政の改革

### [1] 事業運営の改革

#### ① 事業運営の改革—「学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発」（公益目的事業1）の改革

——科学及び学術に関する議論と社会発信の一層の強化

##### i 『学術の動向——科学と社会をつなぐ』の改革推進

季刊同誌掲載論考の査読等を充実させることにより学術誌としての価値を一層高める。同時に、「科学と社会をつなぐ」という同誌刊行の基本理念の下、特定の狭い専門分野に偏ることなく、分野横断的な内容を平易に表現すると同誌編集方針に基づき、科学者コミュニティの総合的、俯瞰的助言活動に資するよう努める。

##### ii 「科学と社会研究会」による議論の推進

「科学と社会研究会」（以下、「研究会」）において、科学と社会、科学技術の研究及びその成果の社会への適用に関する議論を引き続き行う。

特に、「第三カテゴリー研究」（注）に関しては、第三カテゴリー研究の「種」を発掘する調査研究を引き続き推進する。

（注）第三カテゴリー研究：既存の研究助成制度によっては支援されないが社会的に解決すべき研究課題

研究会による議論の成果は、『学術の動向——科学と社会をつなぐ』に随時掲載し、同誌による「科学と社会」に関する発信を強化する。

##### iii 異分野交流研究活動の着手と推進

劣悪な研究環境等若手科学者が置かれる閉塞状況からの脱却・転換に向けた取り組みとして、原田弘二基金による若手科学者の分野横断交流研究活動（シンポジウム、ワークショップ等）を推進する。

「異分野交流研究活動」の成果は、『学術の動向——科学と社会をつなぐ』に随時掲載し、同誌による「科学と社会」に関する発信を強化する。

特に、本年度からは、寄付者（故原田弘二氏）の遺志をふまえて、既存の分野と組織に閉塞されている若手医系研究者に刺激を与え、その想像力を喚起するため、全国の医系大学に「学術の動向」を無償配布する。

上記無償配布事業と並行して、新しい社会発信方法についても検討する。

#### ② 財団財政の改革

当財団の直面する財政危機は、年度を追う毎に深刻になっており、当財団の法人としての存立自体が危殆に瀕している。

このような状況認識に立ち、日本学術会議と緊密に連携・協力しながら、当財団財政基盤の強化に取り組む。

## 日本学術会議地区会議の公開講演会開催に対する支援

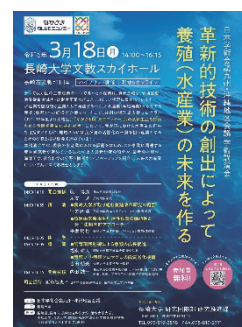
財団は、日本学術会議の各地区会議が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

### ◎九州・沖縄地区会議学術講演会

「革新的技術の創出によって養殖（水産業）の未来を作る」

日時：令和6年3月18日（月）

場所：長崎大学文教スカイホール（対面・オンライン併用開催）





※お申込みは FAX にて  
03-5410-1822

A5 判、356 頁  
本体 1,800 円 + 税 (送料別)  
賛助会員は割引価格  
1,782 円 (送料込)

## 学術会議叢書 31

# 『女性の政治参画をどう進めるか』の出版について

財団では、毎年、学術図書として『学術会議叢書』を発刊しています。令和5年度は、『女性の政治参画をどう進めるか』と題する叢書を発行いたしました。

この叢書につきましては、例年と同じく、公益財団法人一ツ橋総合財団から助成をいただき、全国約 1,500 か所の国公立図書館、大学付属図書館等に寄贈いたしました。

### 【目次】

「発刊に寄せて」 / 光石 衛  
はじめに / 三浦まり

### 第一部 政治分野における男女共同参画推進法の成果と課題

- 1 女性の政治参画はどこまで進んだか? 三浦まり
  - 2 女性の参画で活力ある地方議会へ 大山礼子
  - 3 地方議会のハラスメント防止体制をどう構築するか 三浦まり・内藤忍
  - 4 地方議会における女性議員へのハラスメントとその打開の方策 大倉沙江・江藤俊昭
  - 5 地方議会における議員在任中の出産・子育ての実態と両立のための法規・環境整備について 永野裕子
  - 6 女性議員を増やすために、現場の声から生まれた三つの活動 濱田真里
- Column 政治分野における男女共同参画推進法成立と今後の課題 中川正春

### 第二部 諸外国から学ぶ

- 7 フランスからの示唆——政治による男女平等の推進 糠塚康江
- 8 イギリスにおける政党クォータ導入と「労働党女性」の中央集権化 武田宏子
- 9 ルワンダにおけるクォータ制形成の背景と特質 遠藤貢
- 10 半分の成功——韓国のクォータ制からの示唆 申琪榮
- 11 オーストラリア政治におけるジェンダー・ギャップ——クォータによる明暗 杉田弘也
- 12 小選挙区制と政治代表における多様性——ジレンマの克服を目指すカナダ 辻由希
- 13 アメリカ政治における女性参画——バイプラインと制度的取り組み 庄司香
- 14 パリテと実質的代表への道——メキシコからの示唆 馬場香織・リヴィ井手弘子

### 第三部 法律をつくる

- 15 男女共同参画社会基本法——意義と課題 辻村みよ子
- 16 男女雇用機会均等法の意義・展開と課題 烏蘭格日樂
- 17 女性活躍推進法——事業主行動計画の「実施」と「男女間賃金格差の公表」をめぐる 皆川満寿美
- 18 家族法——選択的夫婦別姓を中心に 二宮周平
- 19 「被害者救済」と刑法性犯罪規定の改正 後藤弘子
- 20 DV 防止法の現時点とこれから——ジェンダー立法と呼ばれて 立石直子
- 21 女性支援法の立法過程と女性の政治参画 戒能民江
- 22 LGBT 理解増進法の成立と法的性別変更要件の緩和 三成美保

# データベース学会名鑑

## —令和5年度調査について

財団は、平成23年7月より、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と連携してデータベース学会名鑑の運用を行っていましたが、同事業に係るシステムの構築と運用は、令和5年度から、日本学術会議に移管されています。

日本学術会議では「学会名鑑」に掲載する学協会データを更新するため、令和5年度実態調査を、令和5年2月に行いました。財団では、実態調査に係る事務を受託しました。学協会の皆様にはお忙しいところ日本学術会議の事業にご協力くださりありがとうございました。

「学会名鑑」の掲載学会は、日本学術会議協力学術研究団体を対象とし、毎年、日本学術会議が行う実態調査を基にデータを更新します。このデータは、学協会関係の各種施策の企画・立案等、社会の多方面で活用されています。

各学術団体の関係者の皆様におかれましては、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、引き続き、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

学会名鑑 URL : <https://gakkai.scj.go.jp/>

# 学術関係団体事務支援事業

【日本農学アカデミー】  
2024年3月30日（土）  
東京大学弥生講堂及びオンラインのハイブリッド形式にて、シンポジウム「変わりゆく海の環境と海の恵み」が開催され、財団がその支援を行いました。



学会名鑑トップ画面

# 出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822

品切れを除く近刊の書籍については Amazon からもお買い求めいただけます。

## 学術の動向

『学術の動向』は、令和5年度より、季刊化いたしました。  
年4回（4月・7月・10月・1月）発行し、版型をB5版に改めました。

B5判・本体価格 1,650円（税・送料込）  
年間購読 6,006円（税・送料込）  
賛助会員は毎号1冊無料配布

令和6年1月号特集『AIと倫理問題』  
[インタビュー] Tshilidzi Marwala / 江間有沙  
[特別寄稿] 野家啓一 / 伊藤亜紗 / 遠藤薫 / 澁澤栄



◎ 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。

## 公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3  
TEL 03-3403-9788  
03-5410-0242  
FAX 03-5410-1822  
URL <http://jssf86.org/>